



2025年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年5月14日

東

上場会社名 株式会社Amazia

上場取引所

コード番号 4424

URL <https://amazia.co.jp/>

代表者（役職名） 代表取締役社長

（氏名） 佐久間 亮輔

問合せ先責任者（役職名） 取締役CFO

（氏名） 神津 光良

TEL 03-6415-3435

半期報告書提出予定日 2025年5月15日

配当支払開始予定日

—

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家及びアナリスト向け

（百万円未満切捨て）

1. 2025年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年10月1日～2025年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期中間期	1,411	—	△227	—	△224	—	△229	—
2024年9月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2025年9月期中間期 △230百万円（—%） 2024年9月期中間期 —百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期中間期	△34.88	—
2024年9月期中間期	—	—

（注）1. 2024年9月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、2024年9月期中間期の数値及び対前年中間期増減率並びに2025年9月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期中間期	1,589	1,049	62.0
2024年9月期	1,950	1,279	62.3

（参考）自己資本 2025年9月期中間期 986百万円 2024年9月期 1,215百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年9月期	—	0.00	—	—	—
2025年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年9月期の連結業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,050	△15.0	△425	—	△430	—	△432	—	△65.8

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年9月期中間期	6,757,800株	2024年9月期	6,757,800株
② 期末自己株式数	2025年9月期中間期	180,504株	2024年9月期	180,504株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年9月期中間期	6,577,296株	2024年9月期中間期	6,577,139株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2025年5月15日（木）に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料については、TDnetで本決算短信と同時に開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 経営成績等の概況

当社グループは、前連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、前中間連結会計期間との比較・分析は行っておりません。

（1）当中間期の経営成績の概況

当社が属する電子書籍市場規模は、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2024」によると、2023年度の電子書籍市場規模は6,449億円と推計され、2022年度の6,026億円から423億円（7.0%）増加し、2028年度には8,000億円を超える市場に成長すると予測されており、電子書籍ユーザーは、引き続き増加傾向にあります。

一方で、電子書籍市場の競争環境は厳しく、アクティブユーザー数が減少傾向にあることに加え、広告市況の悪化により広告収益単価も低下しています。

このような市場環境の中で、当社グループはエンターテインメント事業において、主力サービスである「マンガBANG!」の収益性の改善及びオリジナル作品の制作を強化するとともに、前期に立ち上げたITソリューション事業において、事業の立上げ及び拡大に向けた先行投資に注力しました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は1,411,569千円、営業損失は227,449千円、経常損失は224,791千円、親会社株主に帰属する中間純損失は229,409千円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より、報告セグメントを変更しております。詳細は、「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 （4）中間連結財務諸表に関する注記事項 （セグメント情報等） セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

（エンターテインメント事業）

「マンガBANG!」において、広告枠の増加及び販売促進活動としてポイント還元キャンペーンを積極的に行いましたが、費用対効果を考慮して広告宣伝費を抑制した影響でMAUが減少、及び広告収益単価の下落等による影響の方が大きく、課金収益、広告収益ともに減少しました。

一方で、将来の利益の源泉となるオリジナル作品（WEBTOON含む）の制作に引き続き注力し、累計50万部（電子売上含む）を突破した「ミリモス・サーガー末弟王子の転生戦記」の続刊や新作の一部が好調に推移しました。

また、2025年2月には、海外向けにトレーディングカード、フィギュア、プラモデル、缶バッジ、ぬいぐるみなどを販売する越境ECサイト「Fandom Tokyo」を開始しました。

この結果、売上高は1,398,189千円、セグメント損失は39,456千円となりました。

（ITソリューション事業）

SES（システムエンジニアリングサービス）事業については、積極的なIT人材の採用活動により、人件費等が増加しましたが、堅実に案件も拡大しています。また、インターネット広告を商材としたSEOメディア「LogsFix」では、顧客獲得に向けた先行投資を行っております。2025年3月にはオンライン診療支援サービス「ウィズマイメディカルオンラインクリニック」の事業を開始しました。

この結果、売上高は13,380千円、セグメント損失は24,932千円となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 財政状態の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における総資産は1,589,710千円となり、前連結会計年度末に比べ360,525千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が203,887千円、売掛金が119,861千円減少したことによるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は539,745千円となり、前連結会計年度末に比べ130,860千円減少いたしました。これは主に、未払金が75,226千円、買掛金が50,033千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は1,049,964千円となり、前連結会計年度末に比べ229,665千円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純損失の計上により利益剰余金が229,409千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ203,887千円減少し、724,621千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、191,261千円となりました。その主な要因は、売上債権の減少119,861千円により資金が増加した一方で、税金等調整前中間純損失の計上229,791千円、未払金の減少75,226千円により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、12,626千円となりました。その主な要因は、関係会社短期貸付金による支出10,000千円、敷金及び保証金の差入による支出3,088千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において、財務活動によるキャッシュ・フローはありません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績予想につきましては、2024年11月13日に公表した通期業績予想から変更はありません。

なお、当該業績予想につきましては、公表時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

今後、業績予想に変更があった場合は速やかに公表いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	928,509	724,621
売掛金	517,990	398,129
商品	-	1,218
コンテンツ	34,040	43,248
未収還付法人税等	2,825	-
その他	147,418	99,952
流動資産合計	1,630,785	1,267,170
固定資産		
投資その他の資産		
敷金及び保証金	216,326	219,414
その他	103,125	103,125
投資その他の資産合計	319,451	322,539
固定資産合計	319,451	322,539
資産合計	1,950,236	1,589,710
負債の部		
流動負債		
買掛金	224,931	174,898
未払金	209,707	134,481
未払法人税等	95	2,753
引当金	1,800	2,250
前受金	193,070	183,715
その他	33,752	29,397
流動負債合計	663,356	527,495
固定負債		
関係会社事業損失引当金	7,250	12,250
固定負債合計	7,250	12,250
負債合計	670,606	539,745
純資産の部		
株主資本		
資本金	366,724	366,724
資本剰余金	363,010	363,010
利益剰余金	618,406	388,997
自己株式	△132,346	△132,346
株主資本合計	1,215,794	986,385
新株予約権	62,989	63,579
非支配株主持分	844	-
純資産合計	1,279,629	1,049,964
負債純資産合計	1,950,236	1,589,710

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
売上高	1,411,569
売上原価	1,152,993
売上総利益	258,576
販売費及び一般管理費	486,025
営業損失(△)	△227,449
営業外収益	
受取利息	473
受取手数料	987
その他	1,195
営業外収益合計	2,657
経常損失(△)	△224,791
特別損失	
関係会社事業損失引当金繰入額	5,000
特別損失合計	5,000
税金等調整前中間純損失(△)	△229,791
法人税等	462
中間純損失(△)	△230,254
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△844
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△229,409

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

当中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	
中間純損失(△)	△230,254
中間包括利益	△230,254
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	△229,409
非支配株主に係る中間包括利益	△844

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純損失(△)	△229,791
賞与引当金の増減額(△は減少)	450
関係会社事業損失引当金の増減額(△は減少)	5,000
受取利息	△473
株式報酬費用	589
助成金収入	△500
売上債権の増減額(△は増加)	119,861
前受金の増減額(△は減少)	△9,354
仕入債務の増減額(△は減少)	△50,033
未払金の増減額(△は減少)	△75,226
その他	44,263
小計	△195,215
利息の受取額	473
助成金の受取額	500
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	2,980
営業活動によるキャッシュ・フロー	△191,261
投資活動によるキャッシュ・フロー	
関係会社短期貸付金による支出	△10,000
敷金及び保証金の差入による支出	△3,088
その他	462
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,626
財務活動によるキャッシュ・フロー	
財務活動によるキャッシュ・フロー	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△203,887
現金及び現金同等物の期首残高	928,509
現金及び現金同等物の中間期末残高	724,621

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65－2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前連結会計年度については遡及適用後の連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当中間連結会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益計 算書計上額 (注) 2
	エンターテイメ ント事業	ITソリューション事業	計		
売上高					
ユーザー向け売上高	957,135	—	957,135	—	957,135
法人向け売上高	441,053	13,380	454,434	—	454,434
顧客との契約から生じる収益	1,398,189	13,380	1,411,569	—	1,411,569
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,398,189	13,380	1,411,569	—	1,411,569
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,398,189	13,380	1,411,569	—	1,411,569
セグメント損失(△)	△39,456	△24,932	△64,389	△163,059	△227,449

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△163,059千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△163,059千円です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、当中間連結会計期間より、2025年2月より新たに越境EC事業を開始したことを契機に、従来「マンガアプリ事業」としていた報告セグメントの名称を「エンターテイメント事業」に変更し、従来の「マンガアプリ事業」と越境EC事業を「エンターテイメント事業」の報告セグメントの区分に集約しております。